

産地 かあちゃん 通信

第61回

うもれ木の会 (福島県) 渡辺 千鶴子さん

【プロフィール】夫・直行さんとの運命的な出会い、そして梨の栽培に翔けた30数年。夫が先に逝き、虚無感と悲しみにくっていた千鶴子さんを救ったのはやはり梨づくりだった。多くの仲間や新しい出会いもあり、困難や試練に直面しても大丈夫!と信じて走り続けている。

【所在地】福島県福島市笹木野
【主な生産物】梨 (特別栽培)



▲千鶴子かあちゃん



夫の遺志と梨の木、
仲間たちに支えられて

▲2002年10月、二十世紀梨の下で
(写真左から女、千鶴子さん、初孫、ありし日の直行さん、長男)



▲「エコ・うもれ木の会」の梨・幸水(大玉)



▲ボランティアで手伝いに来ってくれる友人たちと畑で
(写真左から3番目が千鶴子さん)

うちの梨にはまった直行さん

出会いは大学の合コン。直行さんは福島大、私は短大に入学したばかり。でも、その席でお互いピピッと来るものを感じ(笑)、その日からお付き合いを始め、その後直行さんの卒業と同時に結婚したの。私の実家は梨農家ですが、兄が出て後継ぎがいなかった。すると経済学部で農業とは無縁の直行さん、在学中に私があげた実家の梨のおいしさに感激し、「農業やる!」と宣言。名前が名前だけに決意は早かったわね(笑)。

実家は慣行栽培。でも直行さんは体が農薬などを受け付けず、平成元年に私の父が亡くなってからは、果樹栽培では難しいとされている有機無農薬栽培を2人で一から模索しました。あらゆることに挑戦し、なんでこんなことにお金かけるの?と思うこともあった。周囲の目が厳しい時期もあったけど、「木を丈夫にすれば農薬を少なくできる」と譲らざるがばったの。「うもれ木の会」を結成したのも直行さん。「直行さんは若くして逝ったけど、充分したもんね」とみんな言ってくれています。

私は梨の木に生かされている

直行さんが7年前に旅立ち、そのときは思い出がありすぎる畑に二度と立ちたくないと思いましたが、でも梨づくりは私の心を癒し、安らぎを与えてくれる。また己の力ではおぼえない力や恵みを感じさせてくれる。それに気づいてからは、畑は4分の1にしたけど、私なりの精一杯の力と愛情を梨の木にもらってもらおうと作業しています。多くの仲間や出会い(パルシステムもそのひとつ)にも支えられ、一年一年無事に乗り越えられています。

私自身は実質梨づくり7年生。1年に1回しか収穫できない果樹は毎々が勉強です。剪定や花粉交配などの重要な作業は、梨の木に「お願いします」とすがる気持ち(笑)。「ひとりで大変ね」と言われますが、でも大事な作業はひとりでやりたい。爪も黒く指先も荒れますが、梨の木と向き合い、おいしい梨を実らせる手伝いをしたいと思う。笑うかもしれないけど、朝畑に入ったら「よろしくお祈りします」と手を合わせ、作業が終わったら「ありがとうございました」と頭を下げてます。

3.11のときは畑で棚掛作業中。13日3号機バント! ニュースで福島の原発事故の重大さを知り、不安と恐怖に。娘と孫は新潟に避難させました。当時、福島市は線量が高く畑に立つのをためらいましたが、梨の木は日々成長しています。農家の人たちは内部被爆を考えながらも手入れを続けました。風評被害も大きかった。作物には何の罪もないのに…と悔しかった。原発の不安はまだありますが、打ち込める仕事があることに感謝し、大好きなふるさと福島で、梨に「ありがとう。大丈夫だからネ!」と語りかけながら前に進んでいきたいです。私は仲間もいるし、梨づくりが好きなので幸せです!



▲千鶴子さんが
年1回収穫時期に作成する
「渡辺果樹園だより」



千鶴子かあちゃんレシピ 焼肉のタレ

材料:梨●個、[A]おろしにんにく●半分、おろししょうが●半分、すりおろした玉ねぎ●、ごま●、しょうゆ●

- ①梨をすりおろす。
- ②すりおろした梨に[A]を混ぜ合わせる。

うもれ木の会ってどんなところ?

福島県福島市笹木野。渡辺直行さん(故人)が呼びかけ、現在9名。茨城の梨博士を訪れるなど研究熱心で、特別栽培などに会全体で話し合いチャレンジ。安全・安心・糖度をテーマとしてこだわり、前向きで日々努力を惜しまない。会名も直行さんが名づけ、由来は井伊直弼が逆境時代、彦根で住んだ控え屋敷につけた名「埋木舎」から(ここで逆境にあっても高すべき業があると精進した)。

